

結果の概要

1. 被調査者数

被調査者数は 4,253 人(男 1,812 人、女 2,441 人)であり、1 歳以上 15 歳未満の者は 535 人(男 272 人、女 263 人)、5 歳以上の者は 4,098 人(男 1,728 人、女 2,370 人)、うち 5 歳以上 15 歳未満の者は 380 人(男 188 人、女 192 人)であった。(表 1、図 1)。

2. う蝕とその処置状況

1) 乳歯

5 歳以上 10 歳未満においては、各年齢とも現在歯に対してう蝕を持つ者の割合は 40%を超えていた(表 2、図 2)。7 歳未満の各年齢において過去の調査と比較すると、現在歯に対してう蝕を持つ者の割合(表 3、図 3)、1 人平均 df 歯数(df 指数)(表 4、図 4)、1 人平均未処置歯数(表 5、図 5)のいずれも減少傾向を示している。

2) 乳歯+永久歯

5 歳以上 15 歳未満の各年齢において、4 割～7 割程度の者が乳歯または永久歯の現在歯にう蝕を有する者であった(表 6、図 6)。過去の調査と比較し、減少傾向を示している(表 7、図 7)。

3) 永久歯

[1]う蝕の状況

5 歳以上 10 歳未満の年齢階級では現在歯に対してう蝕を持つ者の割合は 10%であった。20 歳以上 80 歳未満の各年齢階級では 8 割以上にのぼった(表 8、図 8)。過去の調査と比較すると、5 歳以上 25 歳未満の各年齢階級では減少する傾向を示したが、45 歳以上では、増加傾向を示す年齢階級があった(表 9、図 9)。

5 歳以上 15 歳未満の 1 人平均 DMF 歯数(DMFT 指数)は、近年、減少傾向を示しており、今回調査における 12 歳児の DMFT 指数は 1.4 であった(表 10、図 10)。15 歳以上において DMFT 指数を過去の調査と比較すると、若年者において減少する傾向がみられるとともに 50 歳以上の各年齢階級においても減少する傾向がみられた(表 11、図 11)。う蝕の処置状況は若年層では充填が多かったが、高齢者ではクラウン、とくに架工義歯(ブリッジ)の支台となるクラウンが多かった(表 12、図 12)。

[2]喪失歯の状況とその補綴状況

5歳以上の多くの年齢階級で喪失歯を有する者の率(喪失歯所有者率)は、過去の調査より減少する傾向を示し(表13、図13)、1人平均喪失歯数も減少する傾向を示した(表14、図14)。

装着された補綴物の内訳は、80歳未満の各年齢階級では、部分床義歯装着者より架工義歯(ブリッジ)装着者が多く、80歳以上85歳未満の年齢階級では部分床義歯装着者が多かったが、85歳以上の年齢階級では全部床義歯装着者が多かった(表15、図15)。

[3]現在歯の状況(20本以上の歯を有する者の割合等)

20本以上の歯を有する者の割合は増加傾向にある(表16、図16)。なお、75歳以上80歳未満、80歳以上85歳未満の年齢階級の数値を単純平均することで80歳での数値を推定すると、1人平均現在歯数では13.9、20本以上の現在歯を持つ者の割合での推定値は38.3%となる。

40歳以上の男女比較において、80歳以上では1人平均現在歯数(表17、図17)、20本以上の歯を持つ者の割合(表18、図18)ともに男性のほうが女性よりもやや高値を示した。

3. 歯肉の状況

若年者においては歯肉に所見のある者、診査対象歯のない者が少なかったが、高齢になるにつれ歯肉に所見のある者および対象歯のない者が多かった(表19、図19)。4mm以上の歯周ポケットを持つ者の割合について前回調査(平成17年)と比較すると、30~60歳代では概ね低値を示した。一方、75歳以上の高齢者層では今回調査のほうが高値を示した(表20、図20)。この原因として現在歯数の増加が考えられる。

4. 歯列・咬合の状況

12歳以上20歳未満で叢生のある者は約44%(表21、図21)、歯列に空隙のある者は約12%(表22、図22)であった。オーバージェットの状況は(表23、図23)、オーバークロウの状況については(表24、図24)に示した。

5. フッ化物塗布の状況

1歳以上15歳未満においてフッ化物塗布を受けたことのある者は64%であった。その内訳をみると、約15%が市町村保健センター等で、4割弱がその他の医療機関で、そして約1割が両方で受診したと回答した(表25、図25)。フッ化物塗布を受けたことのある者の割合は、調査を重ねるごとに増加している(表26、図26)。

6. 歯ブラシの使用状況

1 歳以上の者では、毎日歯をみがく者の割合は 95%であった。また、毎日複数回歯をみがく者の割合は近年増加している(表 27、図 27)。

7. 顎関節の状況

口を大きく開け閉めした時、あごの音がするか、痛みがあるかという質問に「はい」と答えた者の割合は、どちらも全体的に女性において高い傾向を示した(表 28・図 28、表 29・図 29)。

8. インプラントの状況

15 歳以上の者では、インプラントが入っていると回答した者は 2.6%であり、55～74 歳で高い割合を示した(表 30、図 30)。

9. かみあわせの状況

15 歳以上 45 歳未満の者では、両側で接触のある者が 95%以上であるが、45 歳以上では年齢とともに接触のある者の割合が少なくなる傾向を示した(表 31、図 31)。

なお、本調査の結果(統計表を含む)に示した主な数値等は次の方法により算出した。

1. う蝕を持つ者の割合

1)(乳 歯)

う蝕を持つ者の割合(%) = (現在歯の乳歯にう蝕のある者の数) / (被調査者数) × 100

※ う蝕のある者の数:

未処置歯、処置歯のいずれかを1本以上有する者の数

被調査者数:

検査を受けた1歳以上15歳未満の者で、う蝕のない者、う蝕のある者、歯のない者の総数

2)(乳歯+永久歯)

う蝕を持つ者の割合(%) = (現在歯の乳歯または永久歯にう蝕のある者の数) / (被調査者数) × 100

※ う蝕のある者の数:

未処置歯、処置歯、喪失歯(永久歯のみ)のいずれかを1本以上有する者の数

被調査者数:

調査を受けた5歳以上15歳未満の者で、う蝕のない者、う蝕のある者、歯のない者の総数

3)(永久歯)

う蝕を持つ者の割合(%) = (現在歯の永久歯にう蝕のある者の数) / (被調査者数) × 100

※ う蝕のある者の数:

未処置歯、処置歯、喪失歯のいずれかを1本以上有する者の数

被調査者数:

調査を受けた5歳以上の者で、う蝕のない者、う蝕のある者、歯のない者の総数

2. 1人平均現在歯数

1)(乳 歯)

1人平均現在歯数(本) = (乳歯の現在歯数) / (被調査者数)

※ 現在歯数:

健全歯、未処置歯、処置歯の総数

被調査者数:

前記1.1)に同じ

2)(永久歯)

1 人平均現在歯数(本) = (永久歯の現在歯数) / (被調査者数)

※ 現在歯数:

前記 2.1)に同じ

被調査者数:

前記 1.3)に同じ

3. 1 人平均 df 歯数(df 指数)および DMF 歯数(DMFT 指数)

1)(乳 歯)

df 指数 = (乳歯のう歯数) / (被検査者数)

※ う歯数:

未処置歯、処置歯の総数

被調査者数:

前記 1.1)に同じ

2)(永久歯)

DMFT 指数 = (永久歯のう歯数) / (被調査者数)

※ う歯数:

未処置歯、処置歯、喪失歯の総数

喪失歯数:

喪失歯の総数

被調査者数:

前記 1.3)に同じ

4. 喪失歯所有者率および 1 人平均喪失歯数

1)(永久歯)

喪失歯所有者率(%) = (喪失歯のある者の数) / (被調査者数) × 100

※ 喪失歯のある者の数:

喪失歯を 1 本以上有する者の数

被調査者数:

前記 1.3)に同じ

2)(永久歯)

1 人平均喪失歯数(本) = (喪失歯数) / (被調査者数) × 100

※ 喪失歯数:

前記 3.2)に同じ

被調査者数:

前記 1.3)に同じ

5. 歯ブラシの使用者率

歯ブラシの使用者率(%) = (歯ブラシの使用者数) / (被調査者数) × 100

※ 歯ブラシの使用者数、被調査者数:

1 歳以上の者